



大根占地区で製茶業に勤しむ城下浩一さんが作業をしている茶園に伺うと、広大な敷地のなか一人で、茶葉の状態を見ていた。浩一さんによると、もうすぐ始まる一番茶に向けて茶葉の状態を細かく確認しているとのことだった。

浩一さんは、大学の農学部を卒業と同時に、親族で経営している会社に就職した。何の会社にも就職したんですか？と尋ねると「お茶ですよ。うちは会社組織ですので私は農家ですけど会社員なんです。」と笑った。聞けば、浩一さんのお祖父さんがお茶を始め二代目のお父さん達兄弟が事業を挙げ、浩一さん達が三代目の世代となり、多少の重圧も感じているのだそう。

その重圧をはねのけるように「『三代目の世代はだめだった。』と言われるたくない。父達を超えて世代になりたい。」と話す浩一さんは、同じ志を持つ同世代

From young people in the future

# 錦江に生きる

◎このコーナーでは、町内でこれから根を張っていくと頑張っている若者を中心に紹介していきます。第45回目は、六反田自治会の城下浩一さんです。

## ◎45人目 城下

浩一さん 【六反田自治会】



一番茶の収穫に向けて葉の状態を入念にチェックする浩一さん

部活動でサッカーをしてたんですけどいいですね、と言うと「Jリーガーになれるそうだったんですけどね」と笑った。それは嘘だった…。

最後に一言お願いすると「仕事にいろいろな会の活動と家を空けることが多く、家のことはついつい妻にまかせっきりになっているのに、文句ひとつ言わずに頑張ってくれている妻に『ありがとう』と言いたいです。そして、アンパンマン好きな子ども達に自分がいつも『元気百倍』もらってるので『いつも元気をありがとう』と言いたいです。」と家族想いの浩一さんらしい言葉だった。そして「ふかみ会では一番茶の終わる5月頃から『お茶のおいしい入れ方教室』という活動を行っています。もちろん無料ですので、団体の方や、お友達同士の集まりなどにもお邪魔させていただきますので、ぜひ一度お声かけください。」と浩一さんらしい言葉だった。

浩一さんは、見た目さわやかで熱い魂を内に秘めた、「元気百倍！浩ちゃんマン！」（本人希望）だった。

活動みたいなのです。」と話した。浩一さんのお茶に対する真摯な姿勢と熱い想いがひしひしと伝わってきた。浩一さん他にも肝属地区青年農業士会の会長も務めており、町内にどまらず農業に携わる若者の中心的存在として、農業の未来と真剣に向き合っている。

浩一さんの趣味はサッカー。大学までずっと部活動でサッカーをし、現在も地元のサッカーチームに所属している。大学も

の同業者と『大根占ふかみ会』なるものを結成し、結成以来ずっと会長を務めている。浩一さんは、会の内容を「一言でいえば、お茶の普及活動です。もちろんお茶の勉強もしながら、東京に年3回行き『百円茶屋』という手法で、急須で入れるお茶を広めています。売り上げ的には赤字ですけど、これは利益を出すための活動ではなく、少しでも急須で入れるお茶を飲む人が増えるように、言わば草の根

## 編集後記

●三月に入り、ようやく暖かくなってきたかと思いきや、また寒さがぶり返すような日が続いています。このような寒暖の差が激しい時が一番体調を崩しやすいので、皆さんまだまだ風邪などには十分に注意しましょう。

●夏にはまだまだ程遠いこの時期、なぜか私はすでに日焼けをしてしまい一人だけ夏の様相を呈してきました。夏を先取り……？

●今月の5・6日、鹿児島市で開催された『半島隅くじら元氣市』に参加してきました。これは、鹿児島島の両半島の端の1市3町が地元の特産品などを持ち寄り販売するもので、来場客からは毎年好評を博しています。『生産者の顔が見える安心な市場』であることがその理由の一つです。本町の安心安全な商品を出す最も大事な要素の一つとも言えます。また、生産者だけでなく消費者の顔（ニーズ）が見える市場というのも重要になってくるのではないかと感じます。両者の顔が見える市場が増えていくように微力ながら努力していきたいと感じた一日でした。

